

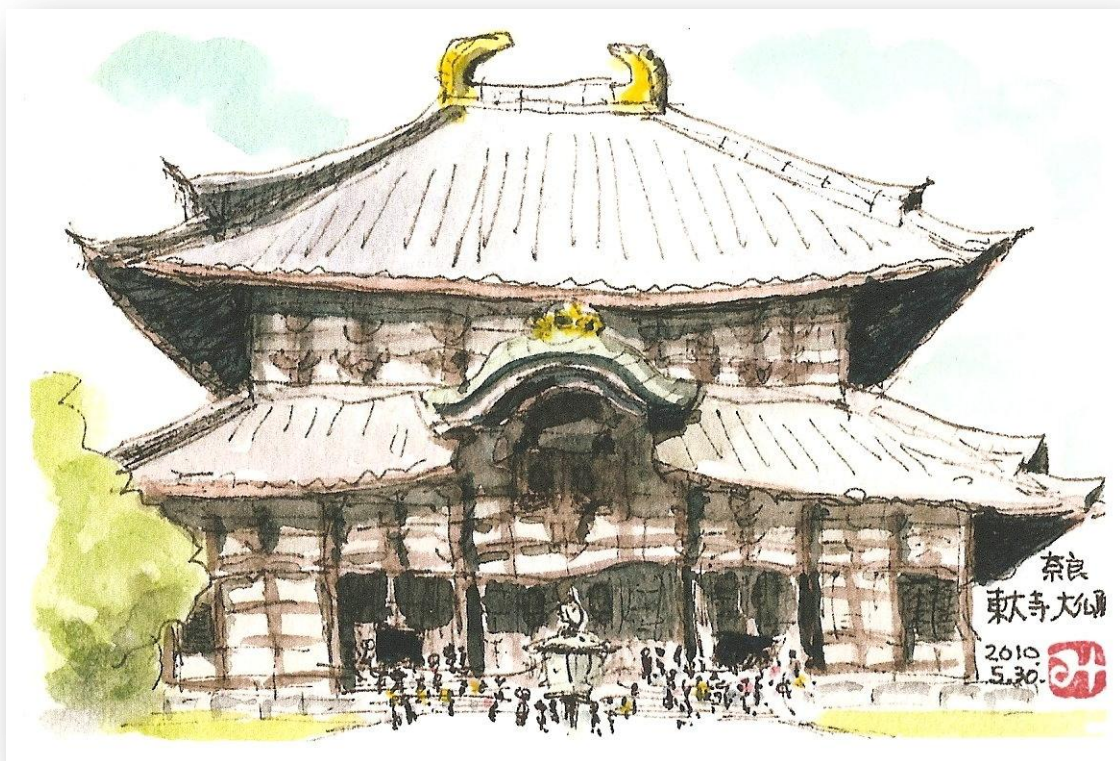
響

ひびき

真宗大谷派 道誠寺報

No.24

2010年7月23日 発行



絵 百田 稔さん

行事のお知らせ(8月、9月)

行事の報告(6月、7月)

法語

門徒さんの感想



今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

8 月

行事のお知らせ

15日
(日)

うらぼんえ
・ 盂蘭盆会
・ 18時～

最近、「真宗ではお盆はやらないんじゃないのですか？」と問われることがあります。世間一般では、お盆の三日間にはご先祖や亡き人の霊がこの世に帰ってくると言われたり、また餓鬼道に墜ちた人も食物が喉を通るとも言われたり、「施餓鬼」というような行事が行われています。しかし、これは仏教本来の「お盆」の意味ではありません。

私たちのご先祖は、そのようにお盆に行ったり来たりする亡霊、靈魂のようなものではありません。したがって真宗では、お盆だからといって「施餓鬼」をしたり、特別に大層なお勤めをしたりはしないのです。このことを受けて、先の問いが出るのですが、お盆にご先祖をお敬いするということが無意味であるというのでは決してありません。

「お盆」に家族揃って、ご先祖や亡き人を偲びつつ、仏さまの教えに出会い、いのちの尊さを確認することはとても意義のあることです。

お盆のお参り、自宅へもお伺いしますので、お気軽にお電話下さい。

9 月

8日
(木)

- ・ にもくかい 二木会
- ・ 14時～

30日
(木)

- ・ 書道教室 写経
- ・ 16時～ 青山 美智子 師
- ・ 同朋会 どうほうかい
- ・ 18時～ 清谷 真澄 師

☆日時変更しました☆

上記の行事はすべて会費
ありません。

「二木会」は門徒さんの親
睦を深める楽しい会です。
初めての方でもお気軽に♪

「同朋会」は『正信偈』を
皆でお勤めした後、真宗の
教えに遇う大切な場です。

電車を御利用の方は、市
川大野駅まで車で送迎致し
ますので、お寺に電話御願
い致します。

(TEL) 047-3337-5305



行事の報告

6月

10日(木)

「二木会」
にもくかい

「おみがき会」

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十三名参加



皆で仏具を丁寧に見がき
ました。

参加できなかつた門徒さ
んから、同じ日に自宅のお
内仏の仏具をおみがきし
ますとファックスでお便り
がきました♪

13日(日)

「日曜法話会」

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十名参加

講師 柳瀬美津子

千葉市にある開教寺、玄
中寺住職、柳瀬 美津子
師を講師としてお招きし
ました。



↑柳瀬 美津子 師

こ
お
う

「呼応の精神」という講題で
お話し下さいました。

「呼応」とは先に問いがあ
り、その問いに応えること
です。問いとは、雑談、愚痴では
なく、生涯を通しての問いで
す。

こ
う
し
よ
う
ひ
び

洪鐘響くといえども、

か
な
ら

た
た

ま

必ず扣くを待ちてま

な

に鳴る

『観経疏』

か
ん
ぎ
よ
う
し
よ

これは、善導大師の言葉

で、「洪鐘」とは、師であり、

「扣く」棒とは、私たちが指

します。

言葉（声）にならないよう

な言葉（声）を聞き取って語

るのが師であり、私たちはそ

の言葉（声）を聞き取り、そ

れに応じるのです。それは

「少欲知足」の一つの意味で

↓うどんいただきました！



もあり、「呼応」です。語る

師と聞き取る私たちが共に

互いに呼応するのです。

また分かりあえる人と出

会うことは一番の徳である

ことをお話し下さいました。

24日(木)

「書道教室」「写経」
「同朋会」 どうほうかい

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

七名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十三名参加

講師 小林尚樹

↓ 書道の様子です



↑ 写経の様子です

書道教室の

青山先生から一言

書道教室を始めてからも
二年になります。

皆さん、ずいぶん上達し、私
もびっくりしております。

一生懸命筆を持って、一字
一字書いている姿は美しいで
す。

忙しい世の中で、たまには
心を落ちつけて、机に向かう
のも良いものです。

書道教室は月一回です。
始めてみませんか？

お待ちしております。

今年の同朋会は、「正信偈」について学びます。

今回は、教区駐在教導の小林 尚樹 師を講師としてお迎えし、「正信偈」の依経段の

普放無量無辺光
無碍無对光炎王
清浄歡喜智慧光
不断難思無称光
超日月光照塵刹
一切群生蒙光照

までの部分についての内容を
を説明いただきました。

ここには、仏さまのはたらき、十二光が顕わされています。つまり阿弥陀仏とは、智慧であり、光であり、照らすはたらきであるのです。そのはたらきによって、私たちのありのままの姿がありのままに照らしだされているのです。

↓小林 尚樹 師



十二光について

- ① 無量光
- ② 無辺光
- ③ 無碍光
- ④ 無对光
- ⑤ 炎王光
- ⑥ 清浄光
- ⑦ 歡喜光
- ⑧ 智慧光
- ⑨ 不断光
- ⑩ 難思光
- ⑪ 無称光
- ⑫ 超日月光

この如来は、光明なり。

光明は智慧なり。智慧

はひかりのかたちなり。

『一念多念文意』

さんあみだぶつげわさん ぐとくしんらんさく
讚阿弥陀仏偈和讚 愚禿親鸞作

1 み だじょうぶつ

弥陀成仏のこのかたは

じっごう

いまに十劫をへたまえり

ほっしん こうりん

法身の光輪きはもなく

せ もうみょう

世の盲冥をてらすなり

阿弥陀仏が衆生を救うために、仏のさとりを開かれ
てから、すでに十劫という長い年月が過ぎ去った。如
来の光明の威力はきわまりがなく、愚かで智慧のまなこ
を失った私たちを常に照らしもって救われる。

2

ち え こうみょう (無量光)
智慧の光明はかりなし

うりょう しょそう

有量の諸相ことごとく

こうきょう

光暁かぶらぬものはなし

しんじつみょう きみょう

真実明に帰命せよ

如来の智慧の光明は、凡夫の容易にはかり知るとこ
ろではない。あらゆる衆生は、この如来の光明をうけな
い者はなく、その徳はあまねくゆきわたっている。私たち
は、この如来の真実の光明に帰依するばかりである。

3

げだつ こうりん (無辺光)
解脱の光輪きわもなし

こうそく

光触かぶるものはみな

う む

有無をはなるとのべたまう

びょうどうかく きみょう

平等覚に帰命せよ

弥陀の解脱の光明は、極まりなく十方世界を照らして
いる。その如来の光に照らされるものは、必ず有無の邪
見を離れることができるとのべられている。ゆえに私たち
は、この平等の理をさとられた阿弥陀仏に帰命するば
かりである。

4

こううんむげによこくう (無碍光)
光雲無碍如虚空

いっさい うげ

一切の有碍にさわりなし

こうたく

光沢かぶらぬものぞなき

なんしぎ きみょう

難思議を帰命せよ

如来の光明は、雲に雨の潤いがあるようにあまねくゆ
きわたり、さわりなく照らすことは虚空のようにはてしがな
い。この光明は一切の障害をもとせせず、衆生は一
人としてこの光沢をこむらないものはない。ゆえに難思
議の阿弥陀仏を帰命せずにはいられない。

5 (無対光)
しょうじょうこうみよう
清浄光明ならびなし
ぐしこう
遇斯光のゆえなれば
いっさいごうけ
一切の業繫ものぞこりぬ
ひっきょうえ きみよう
畢竟依を帰命せよ

6 (炎王光)
ぶつこうしょうようさいだいいち
仏光照曜最第一
こうえんのうぶつ
光炎王仏となづけたり
さんず こくあん
三途の黒闇ひらくなり
だいおうぐ きみよう
大応供を帰命せよ

7 (清浄光)
どうこうみようろうちようぜつ
道光明朗超絶せり
しょうじょうこうぶつ
清浄光仏ともうすなり
こうしょう
ひとたび光照かぶるもの
ごうく げだつ
業垢をのぞき解脱をう

8 (歡喜光)
じこう
慈光はるかにかぶらしめ
ひかりのいたるところには
ほうき
法喜をうとぞのべたまう
だいあんに きみよう
大安慰を帰命せよ

9 (智慧光)
むみよう あん は
無明の闇を破するゆえ
ちえこうぶつ
智慧光仏となづけたり
いっさいしよぶつさんじょうしゅ
一切諸仏三乗衆
たんよ
ともに嘆誉したまえり

清らかな如来の光明は他にくらべるものがない。私たちがこの光を仰いで信ずるとき、一切の悪業煩惱はたちまちに消え失せてしまうのである。ゆえに最後まで頼りになってくださる阿弥陀仏を帰命せずにはいられない。

弥陀の光明のかがやきは、あまりにすぐれているので光炎王仏と名づけられている。ゆえに、三悪道にしずんだ衆生でも、この光明に照らされると、たちまちにその救いにあずかることができる。私たちは、一切衆生の供養を受けられる阿弥陀仏を帰命しなければならない。

弥陀の証果よりはなたれたる光明は、明らかに超えすぐれている。ゆえにその名も清浄光仏という。もしひとたび、この光明に照らされて他力の信を得た人は、悪業煩惱の汚れをのぞいて、如来証果のさとりを開くことができる。

仏の慈悲からはなたれる光明は、十方世界にゆきわたり、この光明のいたりどくところは、人みなみ法の喜びに満ち溢れている。身も心もやすらかにして下される阿弥陀如来に、今こそ私は帰命しなければならない。

弥陀の光明は衆生の疑いを照らし破って、衆生に信心の智慧を起こして下される。ゆえに、この弥陀を智慧光仏と名づけ、三世十方の諸仏をはじめ、声聞・縁覚・菩薩の三乗も、みなともどもに阿弥陀仏をほめ讃えないものはない。

10

こうみょう

(不断光)

光明てらしてたえざれば

ふだんこうぶつ

不断光仏となづけたり

もんこうりき

聞光力のゆえなれば

しんふだん おうじょう

心不断にて往生す

弥陀の光明はたえまなく照らすので、これを不断光
仏と名づけている。ゆえに光明の威神力を聞くものは、
その信ずる心がいつまでも続いて、やがて浄土に往生
することができる。

11

ぶっこうしきりょう

(難思光)

仏光測量なきゆえに

なんしこうぶつ

難思光仏となづけたり

しょぶつ おうじょうたん

諸仏は往生嘆じつつ

みだ くどく しょう

弥陀の功德を称せしむ

如来の光の広大なことは、凡夫のはかり知るところで
ないから、これを難思光仏と名づけている。十方の諸
仏は、私たち凡夫が極楽に往生して仏になることを驚
嘆し、その弥陀の光明の徳を讃嘆されるのである。

12

じんこう りそう

(無称光)

神光の離相をとかざれば

むしょうこうぶつ

無称光仏となづけたり

いんこうじょうぶつ

因光成仏のひかりをば

しょぶつ たん

諸仏の嘆ずるところなり

威神力のはたらきをしめす光明は、言葉や文字では
とてもあらわされないから、無称光仏といわれている。
この弥陀の光明のはたらきによって、一切衆生が仏に
なることを、十方の諸仏は讃嘆せずにはいられない。

13

こうみょうつきひ しょうが

(超日月光)

光明月日に勝過して

ちょうにちがっこう

超日月光となづけたり

しゃかたん

釈迦嘆じてなおつきず

むとうどう きみょう

無等等を帰命せよ

弥陀の光明は日月の光にくらべると、たとえようもなく超
えすぐれている。ゆえにこれを超日月光という。釈迦は
この光明の徳を言葉をつくして讃えられたが、ほめても
ほめてもつくすことができなかった。このようにくらべもの
のない阿弥陀仏であればこそ、私たちはただ信順する
よりほかはないのである。

6月同朋会 資料

作成:小林 尚樹

参考:『三帖和讃の意訳と解説』

『三帖和讃講義』

①「正信偈」・『教行信証』「行巻」(真宗聖典 204 頁)

普放無量無辺光 (あまねく、無量・無辺光)

無碍無対光炎王 (無碍・無対・光炎王)

清浄歡喜智慧光 (清浄・歡喜・智慧光)

不断難思無称光 (不断・難思・無称光)

超日月光照塵刹 (超日月光を放って、塵刹を照らす)

一切群生蒙光照 (一切の群生、光照を蒙る)

②お内仏の脇掛け

右「帰命尽十方無碍光如来」 左「南無不可思議光如来」

③『教行信証』「行巻」(真宗聖典 177 頁)

帰命とは本願召喚の勅命なり

④『尊号真像銘文』(真宗聖典 518 頁)

帰命ともうすは、如来の勅命にしたがうところなり

『尊号真像銘文』(真宗聖典 521 頁)

帰命はすなわち釈迦・弥陀の二尊の勅命にしたがいて、めしにかなうともうすことばなり

⑤『一念多念文意』(真宗聖典 543 頁)

遇は、もうあうという。もうあうともうすは、本願力を信ずるなり。

⑥『一念多念文意』(真宗聖典 543 頁)

きくというは、本願をききてうたがうところなきを「聞」というなり。また、きくというは、信心をあらわす御のりなり

『尊号真像銘文』(真宗聖典 521 頁)

聞というは、如来のちかひの御なを信ずともうすなり

『教行信証』「信巻」(真宗聖典 240 頁)

「聞」と言うは、衆生、仏願の生起・本末を聞いて疑心あることなし。これを「聞」というなり

7月

8日(木)

「二木会」

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十名参加

道誠寺で茶話会をしました。暑かったので、冷えたビールも少々(笑)
八月はお休みです。

22日(木)

「書道教室」「写経」

「同朋会」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

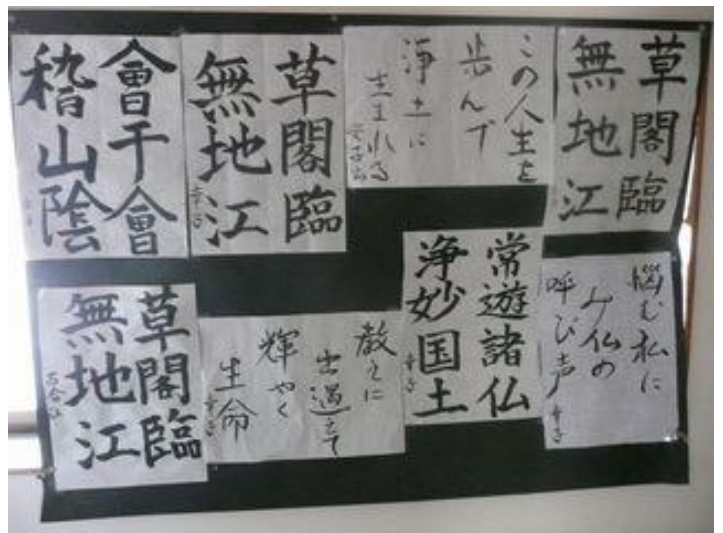
八名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十八名参加

講師 清谷真澄



↓書道教室では、書いた作品は廊下に貼ったりします。楷書や行書、その日その日でお好きな書き方を練習できます。

同朋会の様子 ↓



七月の同朋会は、「正信偈」のお勉強は少し休憩して、「正信偈」のお勤めについて作法や読み方などを清谷先生から学びました。

お勤めのことは「勤行ごんぎょう」といしい、「声明しょうみょう」ともいいます。

お勤めは、基本的に偈文げもん十念じゆん仏ぶつ十和讃わさん十回向えんこうの形です。

門徒さんと皆で一緒に声をあげて勤められるように「正信偈」の「声明」を勉強しました。

また聞法会の前などに読まれる「三帰依文さんきえもん」についてお話しされました。「三」とは「仏・法・僧」の「三宝」のことです。「仏」は仏さま、「法」は仏さまの教え、「僧」は「お坊さん」ではなく「僧伽さんか」です。「僧伽」とは、教えを伝える人とその教えを聞く人

のことをいいます。

仏教、仏さまの教えは、一方的な語り手だけでは成り立ちません。求めて聞く人があったからこそ、それは教えとなり、今まで伝わってききました。それを「転法輪てんぽうりん」といいます。仏さまが初めて五人のお弟子しよせんに説法をしたことを「初転法輪ほくりん」といいます。

九月の同朋会では、「正信偈」の「声明」の復習と続きの念仏和讃の練習予定です。どうぞお気軽に♪

門徒さんの感想

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

お待ち受け大会に参加して

去る六月二十七日に三井ガ

ーデンホテル千葉にて宗祖親

鸞聖人七百五十回御遠忌お

待ち受け大会 兼 親鸞聖人に

人生を学ぶ講座最終講が開か

れました。道誠寺では住職含

め、十三名の参加でした。音楽

法要ということもあり、音楽を

聴きながら仏法に触れていて、

とても新鮮でした。

青山 桂明

今迄に、色々な法話、講習

会等を聞きましたが、今回のお

待ち受け大会での音楽による法

話会は初めてであり、大変驚く

とともに、すばらしい企画であっ

たと思いました。

時代の変化にともない、ただ

単純な法話を聞く事も大切か

もしれませんが、やはり少しず

つ変化を取り入れた方法によ

り、正面ばかりから耳に目に入

るものから、全ての事が色々な

角度から開き、見る事も大切

な事に気が付きました。

いずれにせよ、私にとりまして

は、大変楽しく意義のあった一

日でした。



青山 美智子

六月二十七日、千葉市にて

お待ち受け大会に出席し有意

義の一日をすごしました。梅雨

空でむし暑い日になりました

が、幸いに雨もなく終わりました。

釣谷 昭紀

りがとうございました。

此の度の「お待ち受け大会」に

初めての音楽を取り入れた

は興味津々の想いで参加させて

古賀 幸子

法要で、どんな展開になるのか

頂きました。四名の方々が「親

と、興味津々でした。

鸞聖人に人生を学ぶ講座」数回

法話と音楽では、「親鸞ブル

の受講での感話の発表の中に、

ース」、「お坊さんに憧れてお寺

聖人の教えが、いかに今の人生

に入ったの」等々、作詞・作曲を

の、生活の一部になり、生かき

住職がされ、それを自分達で歌

れ、生きている事が話の端々に

い、その間に法話が入り、聞き

感じられました。

入ってしまいました。

そして三人の方々の音楽法

時間のすぎるのが早く、もう

要、歌唱や演奏、そして時折ユ

一度この様な法要に出席したい

ーモアを交えての話術には感心

と思いました。

合掌

致しました。この催しを企画し

実行されました役員の皆様あ

うなものだか分からず、イメー

りです。

千葉県代表の四人の方々の話

を聞き、信心深い人達だと感銘

しました。音楽法要とはどのよ

ジ的にはお経しか思い描けませんでしたがお寺の住職さん達がピアノを弾いて歌を歌ったり、ギターを持って歌う姿に感動しました。歌声が素晴らしいです。

星 安子

親鸞聖人様の「南無阿弥陀仏」の教えを、高僧の方達のもと困難を克服し支えられて、今迄七五〇年長い歳月に渡って広められた御心労に胸を打たれました。

また青山さんは親鸞聖人の越

後での苦労されたことを切々とお話し下さり感動致しました。青山さんお疲れ様でした。

音楽法要とはどの様なものかと案じていましたが、その歌声は素晴らしく、熱唱に引き込まれ、「青春時代」に返った様な…

熱き心に燃え拍手を送りました。素晴らしい一日でした。どうも有難う御座いました。

多田 彰

音楽に

法話念佛

よく似合う

三井ガーデンホテルにて、親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け大会に大勢の門徒さんが集いました。親鸞聖人に人生を学ぶ講座千葉西北部ブックス代表の青山さんの感話発表は穏やかな語り口で、親鸞聖人の法難の地、御旧跡等のお話有難く聞き入れました。また音楽では法衣を纏った方々が作詞、作曲、演奏、歌等一人何役もこなし、驚嘆致しました。またこの様な機会がありましたらお誘い下さい。お願い致します。

後瀉 清正

二〇一〇年六月二十七日

日曜日に三井ガーデンホテル
千葉にて、音楽法要が開かれ
て、参加者全での「三帰依
文」、「正信偈」、「同朋奉讃」の
読誦、大合唱が腹底より響
き、感動しました。同朋会での
お勤めの合唱でも、今後は心
して、さらに我が家でも出来
る限り、仏前にて「正信偈」を
声に出して音読し、心安らか
な日々を過ごしたいと思いま
す。

御懇志

※ホームページ上では

公表しません。

敬称略

どうもありがとうございます

ございました。

◆敬弔

※ホームページ上では

公表しません。

生前のご功労を偲び、

念仏合掌して哀悼の意

を表します。

法語

如来とは感動なり

如来の声に耳を傾ける
ことは大切なのです。如来
は凡夫の思い込みや固定
観念を再点検してくれる
からです。執着や煩惱、
あるいは凝り固まっている
意識をいったん白紙に戻し
て、もう一度、あの感動の
原点に戻らせてしてくれま
す。一瞬だけであつても、
清浄な「浄土」を思い起こ
させてくれます。

菅原伸朗

☆編集後記☆



◆「門徒さんの感想 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会に参加して」を特集してみました。音楽法要ということで、ピアノ、ギターの手奏でるメロディーや、すばらしい歌声、そして合間のお話に胸を打たれ、とても感動しました。

このことから、今回の『響』の「法語」(十七頁)では、「感動」について記載しました。

◆八月の同朋会、二木会、日曜法話会はお休みです。

(釋光生)



記念撮影♪

編集発行人

〒272-0804

千葉県市川市南大野1-26-31

道誠寺 釋光生

URL <http://douzyouzi.com>

電話 047(337)5305

FAX 047(337)5306